

2021 年度

授 業 計 画

ソーシャル・ケア学科



学校法人 敬心学園 東京都知事認可 厚生労働省指定養成施設

日本福祉教育専門学校

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2021 年度	ソーシャル・ケア学科		1 単位	30 時間	15 回	4 年 ・ 半期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	演習	介護総合演習Ⅳ		中島 たまみ		
<p>介護実習Ⅲ段階の振り返りと、設定した目標の達成度や今後の介護実践の場面での自己課題を明確化していく。各自が実習場面で得た事例の検討を通して、介護過程の理解とさまざまな事例に対応できる能力を身につけることができる。</p>						
■授業の方法						
<p>介護実習Ⅲ段階の評価や実習記録・資料などをもとに、フィードバックを行いながら自己課題を明確にする。</p> <p>介護実習Ⅲ段階で展開した介護過程について、ケーススタディとしてまとめ、クラス内で発表する。</p>						
■実務経験と授業内容への活用						
なし						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
<ul style="list-style-type: none"> ・求められる介護福祉士像とは何かを説明できる。 ・介護過程の展開をケースレポートとしてまとめることができる。 						
<p>介護実習Ⅲ段階の振り返りと、設定した目標の達成度や今後の介護実践の場面での自己課題を明確化していく。各自が実習場面で得た事例の検討を通して、介護過程の理解とさまざまな事例に対応できる能力を身につけることができる。</p>						
■授業計画						
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 介護実習Ⅲの振り返り 3. 介護実習Ⅰ～Ⅲの振り返り（自己課題の明確化） 4. 介護実習Ⅲの振り返り（介護過程の展開を整理する） 5. 介護実習Ⅲの振り返り（介護過程の展開を整理する） 6. 介護実習Ⅲの振り返り（介護過程の事例のまとめ①） 7. 介護実習Ⅲの振り返り（介護過程の事例のまとめ②） 8. 介護実習Ⅲの振り返り（介護過程の事例のまとめ③ケースレポート作成） 9. 介護実習Ⅲの振り返り（介護過程の事例のまとめ④ケースレポート作成） 10. クラス内発表（ケースレポートを用いる） 11. クラス内発表（ケースレポートを用いる） 12. クラス内発表（ケースレポートを用いる）及びフィードバック 13. 介護福祉士の役割 14. まとめ 15. 定期試験 						

<p>■成績評価</p>
<p>定期試験 50%、出席率 50%</p>
<p>■教科書</p>
<p>なし 参考文献等は必要に応じて紹介する。また、資料などの必要に応じ、配布する。</p>
<p>■履修にあたっての留意点、その他</p>
<p>「介護福祉実習要綱」、各自の「介護実習Ⅰ～Ⅲ」の実習記録、介護実習Ⅲで実践した「介護過程」の記録・資料等を用意して授業に参加すること。</p>

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2021 年度	ソーシャル・ケア学科		2 単位	30 時間	15 回	4 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
準必修	講義	地域福祉の理論と方法Ⅱ		関根 一春		
■授業のねらい						
「地域福祉の理論と方法Ⅰ」で学習した内容を踏まえて、さらに現在の地域福祉の動向を理解し、将来、地域福祉の推進を担う福祉専門職として必要な知識を身につける。						
■授業の方法						
①教科書を中心に授業を進めているが、授業ごとにレジュメと参考になる資料を示す。 ②授業の中で、国家試験の過去問題や模擬試験問題を解き、国家試験水準の知識の確認を行っていく。						
■実務経験と授業内容への活用						
特別養護老人ホームや障害者支援施設に勤務していた際に、地域の社会資源としての意義と役割を常に考え、他機関・施設等との連携・協働していくことの重要性和、地域住民との関係構築と共生という視点で取り組んできたことを、講義の中に組み入れていく。						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
①地域福祉の理論及び歴史や最新の動向と課題、海外の考え方について、深く理解する。 ②国家試験レベルの知識を身につけるだけでなく、地域における福祉専門職の役割と展開方法などを理解する。						
■授業計画						
1. オリエンテーション（「地域福祉の理論と方法Ⅰの振り返り」と地域福祉の主体と福祉教育 2. 福祉行政と民間組織の役割と実際① 3. 福祉行政と民間組織の役割と実際② 4. コミュニティソーシャルワークと専門職の役割① 5. コミュニティソーシャルワークと専門職の役割② 6. 住民参加と方法 7. ソーシャルサポートネットワーク 8. 地域における社会資源の活用・調整・開発 9. 地域における福祉ニーズの把握方法と実際 10. 地域トータルケアシステムの構築と実際 11. 地域における福祉サービスの評価方法と実際 12. 災害支援、日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方 13. 事例研究（グループワークを利用して） 14. 事例研究（グループワークを利用して） 15. 定期試験						
■成績評価						
定期試験 90%、出席率 10%						

■教科書

新・社会福祉士養成講座9 『地域福祉の理論と方法』（第3版）中央法規

■履修にあたっての留意点、その他

授業の進度により、講義内容が変更になる場合がある。

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2021 年度	ソーシャル・ケア学科		2 単位	30 時間	15 回	4 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
準必修	講義	社会保障制度Ⅱ		山本 正司		
■授業のねらい						
<p>社会保障制度の理解を深め、社会福祉士として必要な法・制度を理解する。そのため、社会保障制度に関する思想と理論がどのように制度の成立に反映されたかという社会保障制度の形成と歴史の変遷について理解する。これにより、社会福祉士として相談援助に必要な社会保障制度の知識を得る。</p>						
■授業の方法						
<p>教科書やプリントに添って講義を展開する。随時、社会福祉士国家試験の過去問題を取り上げ、制度の理解度を確認する。</p>						
■実務経験と授業内容への活用						
<p>福祉事務所での勤務経験から、相談援助を必要としている利用者の方に対して、個々の社会的問題（生活問題）に対する解決策としての社会保障制度を活用できるように、利用者に説明できるようになる。</p> <p>このため、具体的な事例を示し活用可能な社会保障制度には何があるか、グループワークを活用して発表の機会を設定し、制度への理解を深める。</p>						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障制度の理念と理論を理解し説明ができる。 ・ 社会保障制度を活用するための手続きや給付の内容を説明することができる。 						
■授業計画						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と貧困の問題 2. TRマルサスと救貧法 3. B&S ウェップとナショナルミニマム 4. ケインズとベヴァレッジによる合意と福祉国家 5. わが国の恤救規則の成立から救護法の成立 6. 被占領期の福祉政策と社会保障制度審議会勧告（1950 年） 7. 高度経済成長と社会保障制度 8. 日本型福祉社会構想と社会福祉基礎構造改革 9. 中間のまとめ・理解度テスト 10. 新自由主義と社会保障制度改革 11. 福祉政策の正当性をめぐる議論（J ロールズと A セン） 12. ソーシャルイ・ンクルージョンとワークフェア 13. M フリードマンと「負の所得税」 14. ベーシックインカム論争と 21 世紀の社会保障制度 15. 定期試験 						
■成績評価						
定期試験 80% 出席率 20%						

■教科書

「新・社会福祉士養成講座 12 社会保障 第6版」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規

■履修にあたっての留意点、その他

授業は事前学習・事後学習をすること。繰り返し学習することで、制度は理解できます。

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2021 年度	ソーシャル・ケア学科		2 単位	30 時間	15 回	4 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
準必修	講義	低所得者に対する支援と生活保護制度		関根 一春		
■授業のねらい						
低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢・福祉需要とその実際、相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活困窮者自立支援制度などの関連する法や制度、自立支援プログラムの意義と実際について理解することを目的とする。						
■授業の方法						
①教科書の流れに沿いつつも出典や最新の動向等についての資料を別途配布しながら講義形式で行う。 ②国家試験の過去問などを用いて、知識の定着を図りながら進めていく。						
■実務経験と授業内容への活用						
特別養護老人ホームや障害者支援施設などの入居者・利用者のみならず、その家族、地域住民からの相談を受け、福祉事務所（生活保護課）と連絡や連携を図ってきたこともあり、福祉専門職としての知識と法制度の理解などの体験を、講義の中に組み入れていく。						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
低所得者に対する支援について深く理解していくための基礎を身につけることが達成課題であるが、具体的な最低限の指標としては国試レベルの実力をつけることである。						
■授業計画						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要 2. 生活保護費と保護率の動向 3. 生活保護制度①生活保護法の概要 4. 生活保護制度②国・都道府県・市町村の役割、ハローワークの役割 5. 生活保護制度③現業員・査察指導員の役割 6. 生活保護制度④保健と医療の連携 7. 生活保護制度⑤労働施策との連携、その他の施策との連携 8. 福祉事務所の役割と実際①福祉事務所の組織体系 9. 福祉事務所の役割と実際②福祉事務所の活動の実際 10. 自立支援プログラムの意義と実際（自立支援プログラムの目的、自立支援プログラムの作成過程と方法、自立支援プログラムの実際） 11. 低所得者対策①ホームレス対策 12. 低所得者対策②生活困窮者自立支援法の概要 13. 低所得者対策③生活福祉資金の概要 14. 低所得者対策④自立支援の実際、無料定期診療制度、公営住宅、子どもの貧困対策の推進に関する法律の概要 15. 定期試験 						

■成績評価
定期試験 90%、出席率 10%
■教科書
『社会福祉士シリーズ 16 低所得者に対する支援と生活保護制度 第4版』福祉臨床シリーズ編集委員会編（弘文堂）
■履修にあたっての留意点、その他
授業の進度により、講義内容が変更になる場合がある。

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2021 年度	ソーシャル・ケア学科		2 単位	30 時間	15 回	4 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
準必修	講義	保健医療サービス		瀬谷 孝弘		
■授業のねらい						
相談援助活動において必要となる保健医療の制度やサービスについての理解を深め、各専門職の役割とその連携、協働についての理解を通して、実際の社会福祉的支援と問題に対応できる実践力を身につける。						
■授業の方法						
基本的に教科書（テキスト）に従い、授業のねらい及び授業での達成課題上特に重要と思われる章、項目については参考資料などによる補填を行う。また、授業の中で小テストなどを適宜に実施し、国家試験対策を行う。						
■実務経験と授業内容への活用						
精神科クリニックに於いて医療ソーシャルワーカーとして、主に精神科訪問看護、集団精神療法に約9年間勤務した経験を、ソーシャルワーカーの視点から本科目の必要性及び重要性と実践への対応力を現場実践と結び付ける授業へと展開する。						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
保健医療上の各制度やサービス及び専門職について、利用者との関連性の上に理解する。						
■授業計画						
I. 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割						
1. ①保健医療サービスとその構成要素（ひと・もの・かね・情報）						
②戦後の保健医療サービスの整備・拡充						
2. ③医療法改正に見る保健医療サービスの今日的課題						
④医療連携・チーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士						
II. 保健医療サービスを提供する施設とシステム						
3. ①医療法による医療施設の機能・類型						
②保健医療政策により医療施設の機能・類型						
4. ③地域包括ケアシステムと在宅医療						
5. ④診療報酬における医療施設の機能・類型						
⑤介護保険法における施設等の機能・類型						
III. 保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割						
6. ①医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み						
②業務内容（ミクロのソーシャルワーク）						
7. ③業務内容（ミクロからメゾへのソーシャルワーク）						
④業務内容（メゾからマクロへのソーシャルワーク）						
IV. 保健医療サービスの専門職の役割						
8. ①保健医療サービス専門職の概要						

- 9. ②保健医療サービス専門職の基本的姿勢
- ③保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割の実際

V. 保健医療サービスの提供と経済的保障

- 10. ①医療保険制度と診療報酬制度の概要
- ②介護保険制度と介護報酬の概要
- 11. ③公費負担医療制度の概要

VI. 保健医療サービスにおける専門職の連携と実践

- 12. ①保健医療の専門職との連携方法と基礎知識
- ②チームケア実現のための制度や連携機関・団体
- 13. ③保健医療の専門職との連携の実際

VII. 保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践

- 14. ①地域の保健医療ネットワーク構築のための連携方法と基礎知識
- 15. ②地域ケアネットワークの実際

■成績評価

定期試験 70%、出席率 30%

■教科書

『保健医療サービス 第5版』社会福祉士養成講座編集委員会編集（中央法規）

■履修にあたっての留意点、その他

なし

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2021 年度	ソーシャル・ケア学科		2 単位	30 時間	15 回	4 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
準必修	講義	権利擁護と成年後見制度		森 長秀		
■授業のねらい						
成年後見制度および権利擁護のあり方について、国家試験に合格する知識・学力を習得するとともに、資格取得後に相談援助活動の実務において活用しうる制度理解を養うことを目標とする。						
■授業の方法						
下記シラバスの内容に従い、テキストおよび六法を用いて講義形式で進めていく。あわせて、時間の許す限りにおいて国家試験対策として過去問演習やその他の問題演習を行う。						
■実務経験と授業内容への活用						
行政オンブズマン専門調査員として市役所に勤務し苦情処理業務に従事した経験を活かし、行政実務や苦情解決機能の実例を紹介しながら講義を行う。						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
当該科目における国家試験問題に対応できる（＝合格レベル）学力と、実務において駆るよう可能な制度理解を備える。						
■授業計画						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成年後見制度の概要①（法廷後見制度） 2. 成年後見制度の概要②（任意後見制度） 3. 日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）の概要 4. 成年後見利用支援事業の概要 5. 権利擁護に係るマンパワー 6. 権利擁護に係る組織 7. 団体の役割と実際 8. 権利擁護と相談援助活動 9. 権利擁護活動の実務と今後の動向 10. 相談援助活動と法の関わり①（権利擁護と社会福祉相談援助の意義） 11. 相談援助活動と法の関わり②（日本国憲法と権利擁護） 12. 相談援助活動と法の関わり③（民法と権利擁護） 13. 相談援助活動と法の関わり④（行政関連各法と権利擁護） 14. 相談援助活動と法の関わり⑤（社会福祉関連各法と権利擁護） 15. 定期試験 						
■成績評価						
定期試験 60%、出席率 40%						
■教科書						
『権利擁護と成年後見制度（第4版）』（弘文堂）						
■履修にあたっての留意点、その他						
なし						

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2021 年度	ソーシャル・ケア学科		2 単位	30 時間	15 回	4 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
準必修	講義	社会調査の基礎		田北 康成		
■授業のねらい						
社会調査の意義と諸類型に関する基本事項の全般的な把握と理解をした上で、実務への応用を学ぶ。						
■授業の方法						
社会調査がどのように始められて発展してきたか、なぜ社会調査をする必要があるのかといった意義や目的を学び取った上で、量的調査や質的調査など、問題意識や収集したいデータに応じた調査方法にどのようなものがあるかを把握できるよう概説する。また、調査で必要となる倫理、問題意識の設定から先行研究の分析、仮説の立て方、資料やデータの収集から分析までのフローに関する基礎的な事項についても触れる。						
■実務経験と授業内容への活用						
大学での社会調査実施（東日本大震災被災地のフィールド調査の指導や、報道機関の世論調査の支援実施等）の経験を、社会調査の方法論の具体的な事例として伝える。						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
科学的な方法論に基づいたデータ収集と分析手法を学ぶことで、研究・学問上の必要だけでなく、実務上にあられるニーズ把握や問題対処の場において、課題解決に資するような実践的な能力を身につけられることを目標とする。						
■授業計画						
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション／評価方法の説明 2. 社会調査とは何か（社会調査の目的と意義） 3. 社会調査の歴史 4. 社会調査の倫理・人権、プライバシー・個人情報の保護 5. 研究分析のフロー①問いや仮説の立て 6. 研究分析のフロー②先行研究やデータの調べ方 7. 社会測定①構成概念・操作概念、指標、直接効果・間接効果等 8. 社会測定②独立変数・従属変数、理論仮説・操作仮説等 9. 調査設計の4 類型と尺度水準 10. 量的調査①標本抽出と調査票調査の種類 11. 量的調査②調査票の作成 1 12. 量的調査③調査票の作成 2 13. 質的調査の基本 14. 質的調査の実践 15. 定期試験 						

■成績評価
定期試験 80%、出席率 20%
■教科書
「社会福祉士シリーズ5 社会調査の基礎」弘文堂
■履修にあたっての留意点、その他
なし

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2021 年度	ソーシャル・ケア学科		2 単位	30 時間	15 回	4 年 ・ 半期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
準必修	講義	福祉サービスの組織と経営		黒木 豊城		
■授業のねらい						
<ul style="list-style-type: none"> ・「組織とは何か」、「経営とは何か」、「マネジメントとは何か？」を理解し、説明できる。また、福祉サービスの組織と経営の特性についても確認し、基礎理論を理解する。 ・「法人とは何か」を確認し、福祉サービスにかかわる組織や団体の特性を理解する。 ・福祉サービスの管理運営の方法(サービス管理・人事労務管理・会計財務管理・情報管理等)を理解する。 						
■授業の方法						
<p>これまでの社会福祉に関する各科目から得た知識を振り返りながら、実際に福祉サービス提供組織の経営・管理および今後の課題を講義する。非営利組織としての組織や経営を確認するためには、営利組織の組織や経営の理解も必要であるため、レジュメ等を配布し、補足していく。また、社会福祉士国家試験にも配慮し、過去問題についての解説や小テストの実施を行う。</p>						
■実務経験と授業内容への活用						
<p>高齢者用グループホームおよびデイサービスの立ち上げ責任者として携わった経験から、人事・労務および運営における人材育成プランや財務管理のポイント等について説明している。また NPO に所属した経験と会社経営の経験を法人の違いや戦略の説明に用いている。</p>						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスの中核を担う専門職として経営者の使う用語を理解し話し合いができる。 ・福祉サービス提供組織のあり方や経営・管理のあり方について論理的に思考できる。 						
■授業計画						
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「組織とは何か」、「経営とは何か」、「マネジメントとは何か」 3. 福祉サービスにおける組織と経営、福祉サービスにかかわる組織や団体(法人とは) 4. 福祉サービスにかかわる組織や団体(社会福祉法人) 5. 福祉サービスにかかわる組織や団体(特定非営利活動法人) 6. 福祉サービスにかかわる組織や団体(その他の組織や団体) 7. 福祉サービスにの組織と経営の基礎理論(戦略・事業計画・組織) 8. 福祉サービスにの組織や経営の基礎理論(管理運営・集団の力学・リーダーシップ) 9. 福祉サービスの管理運営の方法①(サービスマネジメント・サービスの質の評価) 10. 福祉サービスの管理運営の方法①(苦情対応とリスクマネジメント) 11. 福祉サービスの管理運営の方法②(人事・労務管理) 12. 福祉サービスの管理運営の方法②(人材育成) 13. 福祉サービスの管理運営の方法③(会計管理と財務管理) 14. 福祉サービスの管理運営の方法④(情報管理と戦略的広報)、まとめ 15. 定期試験 						

■成績評価
定期試験 60%、出席率 40%
■教科書
新・社会福祉士養成講座 11「福祉サービスの組織と経営 第5版 第2別刷」(中央法規出版)
■履修にあたっての留意点、その他
なし

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2021 年度	ソーシャル・ケア学科		2 単位	30 時間	15 回	4 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
準必修	講義	就労支援サービス		村井 真理子		
■授業のねらい						
就労に困難を抱える人たちを相談援助により就労へ導くための制度と組織、専門家の役割について学ぶ。雇用状況と就労現場の課題を知る事で就労支援の必要性を理解し、労働法規と就労支援制度の学習から専門職としての関わり方の重要性を感じ取れるようにする。						
■授業の方法						
教科書を中心に制度と組織について講義を行う。体験学習として就労支援サービスに関わる専門職ワーカーや障害のある当事者等をゲストに招いた講義も予定したい。						
■実務経験と授業内容への活用						
ハローワークで障害者専門の相談員、ナビゲーター、コーディネーターを経て、現在は東京都において障害者就労支援員として勤務。就労支援の現場で取り組んできた多くの事例を出来るだけ授業の中に取り入れ理解度が深められるようにしたい。						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士としての就労支援サービスにおける国家資格取得のための基礎知識を身につけられる。 ・専門職として就労支援の相談援助が出来るようになる。 ・就労支援に関わる法規や組織について説明ができるようになる。 						
■授業計画						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職としての就労支援とは 2. 就労の意義と就労支援 3. 雇用と就労の動向① 4. 雇用と就労の動向② 5. 労働法規の概要① 6. 労働法規の概要② 7. 生活保護制度と就労支援制度① 8. 生活保護制度と就労支援制度② 9. 障害者福祉制度と就労支援① 10. 障害者福祉制度と就労支援② 11. 就労支援サービスの実施体制① 12. 就労支援サービスの実施体制② 13. 就労支援サービスの実施体制③ 14. まとめ、振り返り 15. 定期試験 						
■成績評価						
定期試験 80%、出席率 20%						

■教科書

就労支援サービス〔第4版〕 弘文堂 社会福祉シリーズ雇用支援・雇用政策
福祉臨床シリーズ編集委員会編 責任編集 桐原宏行

■履修にあたっての留意点、その他

授業の進捗によって講義内容が変更になる場合あり。

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2021 年度	ソーシャル・ケア学科		2 単位	30 時間	15 回	4 年 ・ 半期
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
準必修	講義	更生保護制度		森 長 秀		
■授業のねらい						
<p>更生保護制度は、司法福祉という、社会福祉と刑事司法の交錯する非常に重要な領域であると同時に、社会福祉士国家試験における専門科目の一を構成する重要科目である。</p> <p>本授業では、“犯罪と刑罰に関する法”の基本的理解を導入とし「犯罪をおかした成人および少年」の構成に関する制度（更正保護法が中心）、ならびに、「触法精神障害者等を医療につなげるための制度」（心神喪失等医療観察法が中心）の制度理解や知識を習熟することにより、国家試験において4問すべての正解を導くことができるだけの学力を養うことを狙いとして、授業を行う。</p> <p>この法領域に関する前提知識は全く不要であるが、意欲的な学習姿勢を求めたい。</p>						
■授業の方法						
<p>講義形式で行う。テキストを通読し、更生保護に関する制度や重要事項を学ぶとともに、過去の国家試験問題等の演習を適宜行うことにより、理解の深化を図る。</p>						
■実務経験と授業内容への活用						
<p>行政オンブズマン専門調査員として市役所に勤務し苦情処理業務に従事した経験を活かし、行政実務や苦情解決機能の実例を紹介しながら講義を行う。</p>						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
<p>①更生保護や医療観察制度に関する知識を獲得し、司法福祉や刑事政策についての基本的な理解を深める。</p> <p>②国家試験問題において正答を導くことができる正確な知識と解答能力を習熟する。</p>						
■授業計画						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 更生保護とは何か／国家試験の概要と出題分析 2. 更生保護制度の概要（1）更生保護の概要 3. 更生保護制度の概要（2）保護観察の内容① 4. 更生保護制度の概要（3）保護観察の内容② 5. 更生保護制度の概要（4）更正緊急保護や恩赦 6. 更生保護制度の担い手 7. 更正保護制度における関係機関・団体との連携 8. 犯罪と刑罰に関する法（1）犯罪類型および刑罰の内容 9. 犯罪と刑罰に関する法（2）犯罪の成立要件 10. 医療観察制度の概要（1）医療観察法の制定経緯と内容 11. 医療観察制度の概要（2）医療観察法の内容（続き） 12. 更生保護における近年の動向と課題 13. 国家試験対策（1） 14. 国家試験対策（2） 						

15. 定期試験
■成績評価 定期試験 60%、出席率 40%
■教科書 『更生保護制度』第3版 社会福祉士シリーズ 20 (弘文堂)
■履修にあたっての留意点、その他 なし

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2021 年度	ソーシャル・ケア学科		4 単位	60 時間	30 回	4 年・通年
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	講義	介護予防		包國 友幸		
■授業のねらい						
<p>少子化、超高齢社会の到来、医療費削減などの社会問題の中で、介護予防運動や整形外科的・内科的疾患の予防改善運動プログラムなどが期待されている。人体の構造や機能、様々な種類の運動による身体的または心理的効果について学び、高齢者・低体力者対象運動プログラム、介護予防運動のあり方について言及する。どのような運動プログラムであれば運動を諦めている方、運動嫌いの方に気軽に参加・継続いただけるのかについて、現場経験や研究結果を含め実践例を紹介する。福祉・医療・教育などの様々な分野の中で、運動が及ぼす社会貢献の可能性について共に考えていく。</p>						
■授業の方法						
<p>基本的に「講義形式と普段着にて教室で実施できる簡単な実技」で授業を進めていくが、授業のテーマにしたがい「講義形式とビデオ教材による視聴覚形式」「普段着にての教室で実施できる実技体験授業のみ」という授業も考えている。</p>						
■実務経験と授業内容への活用						
<p>順天堂大学大学院博士前期課程修了、専攻分野は健康・スポーツ科学。日本社会体育専門学校勤務時にセルフで肩・腰・膝をコンディショニングする高齢者・低体力者対象運動プログラムを開発（1997年）、2000年4月スポーツクラブNAS指導員育成部に入社し肩・腰・膝セルフコンディショニング介護予防運動プログラムを各店舗の社員に研修し全国展開した。社員研修、指導員育成、人材開発、品質管理等を担当後退職。現在、早稲田大学・文教大学非常勤講師、日本介護予防協会・日本ストレッチング協会講師。以上の実務経験を活用し、福祉分野において必要な身体についての知識や介護予防運動の重要性と最低限の指導法をよりわかりやすく効果の実感を通して伝えていく予定である。</p>						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動しないこと・運動不足による疾病（安静の害）の理解 2. 運動の種類（有酸素運動・無酸素運動・筋トレ・ストレッチ・促通など）の理解 3. 有酸素運動の効果についての理解 4. 無酸素運動（特に筋力トレーニング）の効果についての理解 5. 筋の機能と関節の動きの理解により、簡単なストレッチング指導ができる 6. 自宅でできる簡単な軽運動の指導（ホームエクササイズの紹介）ができる 7. 肩の構造と痛みのメカニズムの理解と簡単な対処法が行える 8. 腰の構造と痛みのメカニズムの理解と簡単な対処法が行える 9. 膝の構造と痛みのメカニズムの理解と簡単な対処法が行える 10. 受講者自身の効果の実感により、軽運動の有効性を説明し推奨することができる 						
■授業計画						
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・自己紹介・授業の流れ・評価方法など 2. 介護予防運動の重要性 3. 高齢者の身体的・心理的特性とADL・QOL 4. 身体運動の基礎理論：骨・筋・腱・靭帯など 						

5. エネルギー供給系と有酸素運動の効果
6. 運動と健康（生活習慣病・ダイエットなど）
7. 筋力トレーニングの重要性（筋力トレーニングの効果について）
8. 腰痛について（腰痛の最前線）
9. 運動の心理的效果（身体活動とメンタルヘルス）
10. 手軽にできる筋力トレーニングの実施法
11. アスリートのコンディショニングと高齢者筋トレとの違い
12. 手軽にできるストレッチングの実施法
13. 促通について①
14. 促通について②、試験前まとめ
15. 定期試験
16. 中間試験解説と後期授業の流れ
17. 人体の構造①肩部のエクササイズとストレッチング
18. 人体の構造②上肢のエクササイズとストレッチング
19. 人体の構造③体幹・頸部のエクササイズとストレッチングその1
20. 人体の構造③体幹・頸部のエクササイズとストレッチングその2
21. 人体の構造④大腿のエクササイズとストレッチング
22. 人体の構造⑤膝関節
23. 人体の構造⑥下腿のエクササイズとストレッチング
24. 人体の構造⑦足関節
25. 肩プログラムの実際（肩痛のメカニズムとコンディショニング）
26. 腰プログラムの実際（腰痛のメカニズムとコンディショニング）
27. 膝プログラムの実際（膝痛のメカニズムとコンディショニング）
28. 介護予防運動プログラムの実際
29. まとめ・質疑応答
30. 定期試験

■成績評価

定期試験：60% 出席率：40%

■教科書

指定の教科書なし、毎回の授業時に資料を配布

■履修にあたっての留意点、その他

健康・運動・スポーツなどの興味のある分野について問題意識を持って調べておくこと
 （例：過去の体力テストの結果、実施してきたスポーツ、怪我、ダイエットなど）

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2021 年度	ソーシャル・ケア学科		2 単位	60 時間	30 回	4 年・通年
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	演習	手話演習		加藤 はるか		
■授業のねらい						
<p>聴覚障害者との、手話をはじめとするさまざまなコミュニケーション方法を学ぶ。 既存の福祉施設に聴覚障害者を受け入れる際に自分にできることは何かを考えられるようにする。</p>						
■授業の方法						
<p>覚えた手話等を使い会話をする場面を多く設定し学生参加型の授業とする。</p>						
■実務経験と授業内容への活用						
<p>平成 20 年からの手話通訳活動と、平成 21 年からアシスタント等を始めた手話講習会や平成 29 年から行う本授業講師の経験を活かし、より学生が積極的に参加したいと思えるような授業展開を心掛ける。</p>						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
<p>手話・身振り等を使い自己紹介ができるようになる。 手話を通して聴覚障害者に対する理解を深める。</p>						
■授業計画						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 伝え合ってみよう 手話とは／ SC で手話を学ぶ意義 2. 自己紹介①挨拶・名前／ろう者とのコミュニケーション手話の語源 3. 自己紹介②家族・指文字／指文字の成り立ち 4. 自己紹介③誕生日・数の表現／筆談の方法 5. 自己紹介④趣味・仕事／聴覚障害者の就労 6. 自己紹介⑤住所・まとめ／聴覚障害者の家庭生活 7. 会話① 一日のこと／ろう教育 8. 会話② 一週間のこと・一ヶ月のこと／聴覚障害者の日常生活 9. 会話③ 一年のこと／聴覚障害者の福祉と医療 10. 手話検定試験に向けて① 11. 手話検定試験に向けて② 12. 手話検定試験に向けて③ 13. 手話検定試験に向けて④ 14. まとめ 15. 定期試験 16. 手話検定試験に向けて⑤ 17. 手話検定試験に向けて⑥ 18. 手話検定試験に向けて⑦ 						

19. 表情豊かに・具体的に①
20. 表情豊かに・具体的に②
21. 主語を分かりやすく①位置・方向
22. 主語を分かりやすく②役割の切り替え・指さし
23. 空間の使い方①左右・前後の空間活用
24. 空間の使い方②上下空間・指さし・視線の活用
25. 両手や指の活用①同時性・指の代理的表現
26. くり返しの表現
27. 意味に合った手話
28. 基本文法のまとめ
29. 基本文法のまとめ
30. 定期試験

■成績評価

定期試験 50%、出席率 50%

■教科書

『手話を学ぼう 手話で話そう』（発売：全日本ろうあ連盟/発行：全国手話研修センター）

■履修にあたっての留意点、その他

授業への積極的な参加を求めます。

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2021 年度	ソーシャル・ケア学科		2 単位	30 時間	15 回	4 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	講義	リスクマネジメント論		黒木 豊城		
■授業のねらい						
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスのリスクマネジメントの意義と概要を学ぶ。 ・相談援助業務の役割として情報提供の大事さを理解し、情報収集することがリスクマネジメントに繋がる意味を知る。 ・リスク感性を高め、現実的に対応できる実務スキルを習得する。 						
■授業の方法						
<p>毎回プリント配布、パワーポイント等を用いて解説していく。介護現場での事故、新聞記事やネットなどのニュース事例などからも学び、事故報告書や予防計画書などを作成することで、マネジメント力を身につける。</p>						
■実務経験と授業内容への活用						
<p>介護福祉施設でのヒヤリハットの取組みの経験を用いて、学生にリスクマネジメントの考え方、分析、危険予防およびリスクの洗い出し方の実践を教授する。</p>						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
<p>リスクマネジメントのプロセスを明確にしリスクの要目分析ができ、報告書提出と予防対策計画を立てることができる。</p>						
■授業計画						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方と評価方法、および自己課題の進め方等 2. リスクマネジメントの目的および定義 3. 福祉職関連資格について 4. 地域におけるリスクマネジメント 5. フォーマルサービス・インフォーマルサービス 6. 福祉施設におけるリスクマネジメント(福祉施設の対応) 7. 福祉施設におけるリスクマネジメント(ヒヤリハット・事故報告) 8. 介護福祉のリスクマネジメント 9. 苦情対応のポイント 10. 災害時の危機管理① 11. 災害時の危機管理② 12. 学校生活の中のリスクを洗い出す 13. 学校対策委員会開催方法と実際 14. 訴訟事例を考える、まとめ 15. 定期試験 						
■成績評価						
定期試験 60%、出席率 40%						

■教科書
なし
■履修にあたっての留意点、その他
なし

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2021 年度	ソーシャル・ケア学科		2 単位	30 時間	15 回	4 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	講義	臨床心理学		高橋 透馬		
■授業のねらい						
国家試験や試験取得と切り離して臨床心理学の意義やおもしろさを実感してほしい。						
■授業の方法						
臨床心理学や心理療法の方法論等について講義および、心理アセスメントの体験と合わせて理解を深める。						
■実務経験と授業内容への活用						
地域精神保健福祉の臨床現場で主に精神障害をお持ちの方に対する相談支援業務を行ってきました。現場での実践経験を授業に取り入れることができればと思っています。						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
臨床心理学の歴史の概観、心理アセスメント、心理療法等の方法論、関連知識についての理解を目的とする。						
■授業計画						
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（臨床心理学とは） 2. 臨床心理学の流派、分野など 3. 精神疾患について 4. 心理検査① 5. 心理検査② 6. 精神分析と精神力動的心理療法① 7. 精神分析と精神力動的心理療法② 8. 認知行動療法① 9. 認知行動療法② 10. 来談者中心療法① 11. 来談者中心療法② 12. 発達心理学と臨床① 13. 発達心理学と臨床② 14. 自律訓練法・リラクゼーション法 15. 定期試験 						
■成績評価						
定期試験 70%、出席率 30%						

■教科書
なし
■履修にあたっての留意点、その他
なし

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2021 年度	ソーシャル・ケア学科		2 単位	30 時間	15 回	4 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	講義	レジデンシャル・ソーシャルワーク論		オムニバス		
■授業のねらい						
ソーシャルワークの実践を通して、社会福祉専門職に求められる知識や技術について理解し、今後の活動や研究テーマを模索する。						
■授業の方法						
毎回の授業では、各テーマについて専任教員がレジメを準備し、講義および演習形式で理解を深める。						
■実務経験と授業内容への活用						
各専任教員の福祉事務所、児童相談所、地域活動支援センター等でのソーシャルワークの実戦経験から、施設入所に関わる法制度や各現場の実態や支援の特徴について理解できるよう授業を展開する。						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
社会福祉専門職として求められる実践のあり方について習得する。様々なソーシャルワークの実践現場における役割を理解することで、これからの実践に必要な知識とスキルを明確にすることができる。						
■授業計画						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会事業家 2. 社会事業家 3. 生活保護と家族支援 4. 生活保護と家族支援 5. スクールソーシャルワーク 6. スクールソーシャルワーク 7. アディクションとその支援 8. アディクションとその支援 9. 地域の児童福祉 10. 地域の児童福祉 11. ファミリーソーシャルワークと遊戯療法 12. ファミリーソーシャルワークと遊戯療法 13. 介護施設におけるリーダー像 14. 介護施設におけるリーダー像 15. 定期試験 						
■成績評価						
定期試験 70%、出席率 30%						

■教科書
なし
■履修にあたっての留意点、その他
なし

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2021 年度	ソーシャル・ケア学科		4 単位	60 時間	30 回	4 年・通年
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	講義	総合福祉Ⅳ		黒木 豊城		
■授業のねらい						
社会福祉士国家試験に向けた取り組みと、就職に必要な社会人としての知識、およびプレゼンテーション技術の強化を図る。						
■授業の方法						
卒業研究の準備や発表、就職フェアならびにゲストスピーカーの就職体験談、および講義等を行なう。						
■実務経験と授業内容への活用						
なし						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
<ul style="list-style-type: none"> ・人前でのプレゼンテーション力を身につける。 ・介護福祉士および社会福祉士国家試験に合格できる知識の修得を目指し、 <ul style="list-style-type: none"> ①個人の学習時間を作り出す特質を身につける。 ②得点力を上げるための自分なりのアプローチを身につける。 						
■授業計画						
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：就職フェア 2. 卒業生のゲストスピーチ、国試への取り組み方 3. 「完べき主義より、最善主義」 4. 自己アセスメントと個人学習プランの作成 5. 自己アセスメントと個人学習プランの作成 6. 卒業生のゲストスピーチ、国試への取り組み方 7. 就職活動について 8. 利用者からの暴力などの対応 9. 社会の動向 1 10. 社会の動向 2 11. 社会問題 1 12. 社会問題 2 13. 研究論文発表準備 14. 研究論文発表準備 15. 定期試験 16. オリエンテーション、就職：ゲストスピーカー 17. 研究論文発表 1 						

18. 研究論文発表 2
19. 研究論文発表 3
20. アサーティブな会話
21. 雑談力強化
22. 実習報告会
23. ICT（情報通信技術）の活用について
24. IOT の活用について
25. 変化を促すコミュニケーション
26. 伝え方が 9 割
27. 働く人としての心構え
28. 国家試験準備
29. 国家試験準備
30. 定期試験

■成績評価

定期試験 60%、出席率 40%

■教科書

なし

■履修にあたっての留意点、その他

なし

年度	学 科		単位	時間	回数	学年・期
2021 年度	ソーシャル・ケア学科		2 単位	30 時間	15 回	4 年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	講義	ケアワークの応用Ⅲ		S C 専任		
■授業のねらい						
介護福祉士に必要な、知識の整理、理解の確認を行う。更に介護福祉士国家試験に向けて応用力をつけることで、介護福祉士国家試験の合格を目指す。						
■授業の方法						
介護福祉士国家試験問題（過去の問題、過去の学力評価問題など）等を用い、解答、解説を行っていく。						
■実務経験と授業内容への活用						
なし						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
介護福祉士国家試験に合格できる知識の修得を目指し、定期試験にて国家試験合格水準の得点を得ることができる。						
■授業計画						
1. オリエンテーション 2～4. 実力判定試験（学生個々が自己分析・課題を明確にする） 5～14. 介護福祉士国家試験問題（過去の問題、過去の学力評価問題など）等を用い、解答・解説する。 15. 定期試験						
■成績評価						
定期試験 85%、出席率 15%						
■教科書						
なし 必要に応じ、問題や資料を配布する						
■履修にあたっての留意点、その他						
講義で取り組んだ問題などは、必ず復習し、根拠を持って理解や修得に努める。						

年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2021 年度	ソーシャル・ケア学科		10 単位	150 時間	75 回	4 年 ・ 通 年
必修・選択	種別	科 目 名		担 当 教 員		
必修	講義	ソーシャルワークの応用Ⅱ		オムニバス		
■授業のねらい						
社会福祉士国家試験に向けた、知識の整理、理解の確認を行うことにより、社会福祉士国家試験の合格を目指す。						
■授業の方法						
社会福祉士国家試験問題（過去の問題、過去の実力判定問題など）等を用い、解答、解説を行っていく。						
■実務経験と授業内容への活用						
なし						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
社会福祉士国家試験に合格できる知識の修得を目指し、定期試験にて国家試験合格水準の得点を得ることができる。						
■授業計画						
（後日配布）						
■成績評価						
定期試験 85%、出席率 15%						
■教科書						
なし 必要に応じ、問題や資料を配布する						
■履修にあたっての留意点、その他						
講義で取り組んだ問題などは、必ず復習し、根拠を持って理解や修得に努める。						

b年度	学 科		単 位	時 間	回 数	学 年 ・ 期
2021年度	ソーシャル・ケア学科		2単位	60時間	30回	4年・半期
必修・選択	種別	科 目 名		担当教員		
必修	演習	卒業研究		S C専任		
■授業のねらい						
<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習や社会福祉士実習のなかで、今までの自分が関心を持った事例などをもとに、福祉専門職の視点から考察を行う。 ・先行研究を調べ、論述する力、および論文作法を身につける。 						
■授業の方法						
担当教員による個別指導及びグループ指導を通して行う。						
■実務経験と授業内容への活用						
各担当専任教員の学術的経験から研究論文の意義と手法について提示し、研究テーマ抽出、章立て、および文献レビューの方法を享受しつつ論文作成をサポートする。						
■授業終了時の到達課題（到達目標）						
<ul style="list-style-type: none"> ・研究についての一般的な基礎知識を得える。 ・これまでの実習の振り返りを基に、自分のテーマを研究できるようになる。 ・研究論文を作成し、抄録をまとめ記述までに提出する ・論文発表のパワーポイントを準備する。 						
■授業計画						
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 講義：研究とは 2. 講義：研究課題の探求 3. 研究課題の抽出 4. 研究課題の抽出 5. 担当教員による指導および論文作成 6. 担当教員による指導および論文作成 7. 担当教員による指導および論文作成 8. 担当教員による指導および論文作成 9. 担当教員による指導および論文作成 10. 担当教員による指導および論文作成 11. 担当教員による指導および論文作成 12. 担当教員による指導および論文作成 13. 担当教員による指導および論文作成 14. 担当教員による指導および論文作成 15. 担当教員による指導および論文作成 16. 担当教員による指導および論文作成 17. 担当教員による指導および論文作成 						

18. 担当教員による指導および論文作成
19. 担当教員による指導および論文作成
20. 担当教員による指導および論文作成
21. 担当教員による指導および論文作成
22. 担当教員による指導および論文作成
23. 担当教員による指導および論文作成
24. 担当教員による指導および論文、抄録、および PPT 作成
25. 担当教員による指導および論文、抄録、および PPT 作成
26. 担当教員による指導および論文、抄録、および PPT 作成
27. 担当教員による指導および論文、抄録、および PPT 作成
28. 担当教員による指導および論文、抄録、および PPT 作成
29. 担当教員による指導および論文、抄録、および PPT 作成
30. 論文提出および発表の準備

■成績評価

卒業研究書及び発表 85%、出席率 15%

■教科書

なし

■履修にあたっての留意点、その他

論文提出の締切厳守

